

# 拒否6人 引き続き任命要求

## 学術会議 次期推薦名簿には含まず

日本学術会議は16日、東京都内で総会を開き、秋に改選される次期会員105人の推薦名簿を承認した。菅義偉首相(当時)が任命拒否した6人は新たな名簿に含まれていないとみられる。「8年前の前回の推薦が続いている」との立場で、引き続き任命を求めていく方針だ。名簿は近く政府に提出され、岸田文雄首相が任命を判断する。

学術会議には任期6年の会員が210人いて、3年ごとに半数が新たに選出・任命される。2020年の任命拒否以降では今回が初めての改選となる。任期が10月1日からとなる新会員候補105人を選んだ。学術会議は選考委員会をつくって、昨春秋に候補者選考の手続きを開始。できあがった推薦名簿が今回の総会で承認された。

105人の名前は公表されていないが、3年前に任命拒否された6人は含まれないとみられる。これまで梶田隆章会長ら学術会議側は「(6人の)選考プロセスに瑕疵はなく、6人が任命され

ない具体的な理由の説明もない」と主張。首相による任命手続きは終わっていないとの立場で、6人の任命を繰り返し求めてきた。それだけに、6人を今回の推薦名簿に加える形でも任命を求めたいことも同様に難しい。

一方、政府は任命拒否問題について「一連の手

が厳しかった。学術会議関係者は「候補者について事前に官邸とすりあわせることはない」と話す。

一方、政府は任命拒否問題から論点をすらすらに始まった学術会議のあり方の見直し議論が継続している。政府は近く有識者懇談会を設置し、学術会議

を国の機関から切り離す法人化案も取り上げる方針だ。政府関係者は「しばらく時間をかけて議論をすることになるだろう」との見通しを語る。村山知博、櫻井林太郎、阿部彰之

松野博一官房長官と面会した際、「次期の候補者選考を進める中で解決を考えていくのも一案」と提案された。昨年8月の総会で議論したが、会員からは「政府が学術会議をコントロールできる」ということを認めることにもつながらず」と反発

続きは終了した」との見解だ。岸田政権の官邸幹部は、仮に学術会議が6人を推薦してきた場合でも、「政府として過去に下した判断には筋を通さないといけない」と、再び拒否する構えだ。

もつとも、岸田政権の幹部らは、この問題で菅政権が批判にさらされた経緯から、「6人」に再び注目が集まるのは避けたいのが本音だ。

一方、政府・与党内で、任命拒否問題から論点をすらすらに始まった学術会議のあり方の見直し議論が継続している。政府は近く有識者懇談会を設置し、学術会議

を国の機関から切り離す法人化案も取り上げる方針だ。政府関係者は「しばらく時間をかけて議論をすることになるだろう」との見通しを語る。村山知博、櫻井林太郎、阿部彰之